

令和2年度 学校評価総括表(その1)

奈良県立生駒高等学校

教育目標	自立した社会人の育成を目指して、「知・徳・体」の調和のとれた豊かな人間性を育み、心身を鍛えることによって一人ひとりが高い志をもって目標達成に向けていきいきと行動ができる生徒を育てる。		総合評価
運営方針	・「夢を現実(かたち)」に」を合い言葉として、生徒の自己実現を教職員が一丸となって支援する。 ・限られた時間を有効に使い、文武両道の実現ができる生徒を育てる。		
令和元年度の成果と課題	本年度の重点目標	具体的目標	B
令和元年度、新入試に向け、1,2年生を対象に全員受検でGTECを実施した。英語外部検定の導入は見送られたが、「思考力・判断力・表現力」を重視する出題形式に対応できる取組として、継続して「ポートフォリオの記録」を奨励した。教師はさらに授業改善を行い、生徒が興味を持って取り組むことができる仕掛け作りが必要である。生徒の生活習慣は安定しており、遅刻数も少ない。しかし、各学年に不登校傾向を示す生徒が見られ、彼らのために、さらに家庭と連携することやスクールカウンセリングの活用が必要である。進路実績は昨年度並みであった。しかし、国公立大学への合格者が減少している。学力を伸ばすため、手帳を活用し、時間を自己管理させることで、学習時間の確保や家庭学習の定着を図ることが必要である。	目標に向かうための生活習慣を確立させる。	・手帳を活用し、自己管理のできる生徒の育成を目指す。・生徒の健康管理に努め、欠席・遅刻・早退をなくすことを目指す。・生徒の学習環境の整備及び安全確保に努める。・ノーチャイムや読書時間を活用する。・基本的な生活習慣を確立し、挨拶やマナーに対する意識の向上を目指す。	
	学習習慣の定着を図り、主体的・対話的で深い学びによる学力の向上を目指す。	・主体的な学びにより、学ぶ意欲や学力の向上を図る授業改善を行う。・思考力や判断力、表現力を育てる指導を行う。・手帳を活用し、授業外の学習時間を増やすとともに、記述力の向上を図る。・自習室や学習スペース「Let's Study ミライコマ」の活用を図る。・英単語テストの充実を図る。・模擬テスト・総合学力テストの事前・事後の学習の充実を図る。・家庭学習を習慣化し、その定着を図る。	
	生徒の自己理解を高め、進路意識の向上による進路実現を目指す。	・「進路の手びき」の活用を図る。・学校内外での高校生の活動に積極的に参加する生徒を育成する。・個人面談の充実を図るとともに、充実した進路情報の伝達を図る。・各種検定試験に積極的に挑戦する態度を育成し、学びの主体性を育む。	
	学習と部活動の両立を図れる指導を目指す。	・学習指導と部活動指導の連携を図る。・部活動への参加を奨励し、効果的な指導の工夫をする。・部活動の効率化を進めるとともに、時間厳守の姿勢を育てる。・部活動を通して、逞しい体を養い、豊かな心を育成する。・時間を大切に、自主性・自律性を育む部活動の充実を図る。	
	地域への愛着を持たせるとともに、豊かな人間性の育成に努める。	・挨拶の励行を推進する。・「総合的な探究の時間」・「奈良TIME」の充実を図る。・地域活動や社会活動に積極的に参加する生徒を育成し、「地域と共にある学校づくり」を推進する。・あらゆる機会をとらえて人権意識の向上を図る。・国際理解に努め、幅広い視野と豊かな人間性を育成する。・教育活動の積極的な情報発信に努め、広報活動を充実させる。	

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)				
				自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
第1学年	基本的な生活習慣を確立し、規範意識を高めさせる。	遅刻や課題の提出遅れの防止に努める。また、服装や頭髪など身だしなみを整えさせる。整理・整頓・清掃を充実し、学習環境を整えさせる。	遅刻の各クラス別年間総数の平均 ○50回未満A ○70回未満B ○90回未満C ○90回以上D	A	1学期末の学年遅刻総数29回。 クラス平均は3.2回。	A	A	遅刻回数のクラス平均は30.1であったが、精神的に不安定な生徒数名が2桁回数の遅刻をしている。不注意での遅刻は全体的に少なかった。	基本的な生活習慣が定着している生徒がほとんどであるが、学力層が低い者の課題提出遅れや学校生活への不安感による遅刻・欠席が目立つ。適切な助言、励ましを続けていきたい。	今年度は当初よりコロナ禍で、普通の授業や行事が行うことができなかったため、高校生になった自覚などが少なかったのではないかと心配したが、多くの生徒が部活動に加入し、積極的に活動している。
	基礎学力を身に付け、家庭学習の充実を図る。部活動や学校行事に主体的に取り組ませる。	文化系・体育系・部局を合わせ部活動加入率70%以上の維持を目標とし、学習活動と部活動の両立を目指す生徒を育てる。	部活動の加入率 ○70%以上A ○65%以上B ○60%以上C ○60%未満D	A	体育系部活動 222名 文化系部活動 63名 81.2%	A		体育系部活動 217名、文化系部活動 70名、全体の81.3%が加入。入学後、すぐに在宅教育になり、部活動の加入者が減少するのではないかと心配したが、多くの生徒が部活動に加入し、積極的に活動している。	学習よりも部活動に生活リズムの配分が偏ってしまう生徒が多いため、学習時間の確保が困難になっている。「学習も部活動も!」という空気を発している生徒集団にしたい。	
		授業を大切に、基礎学力を身に付け、宿題・予習などを含めた家庭学習の習慣を身に付けさせる。	学力が向上していると思っている生徒が ○70%以上A ○60%以上B ○50%以上C ○50%未満D	B	1学期生徒アンケートより、「そう思う」・「ややそう思う」の比率は64.7%である。	B		2学期生徒アンケートでは、「そう思う」が19%、「ややそう思う」が47.7%、合計66.7%。	授業中は、真面目に参加しているが予習復習ができておらず、授業内容が定着していない者が多い。入学後、8割を超える生徒が「スタディサプリ」を申し込んだが、活用していない生徒が35.7%もいた(2学期末アンケートより)。実力テストの結果も伸びておらず、毎日の学習習慣の定着を推し進める必要を強く感じている。	
			平日の平均授業時間外学習時間が ○2時間以上A ○1.5時間以上B ○1時間以上C ○1時間未満D	C	1学期生徒アンケートより推測すると、平均1時間。	D		2学期生徒アンケートより推測すると、平均48分。1学期末よりもさらに学習時間が減少している。		
	自らの興味・関心に基づき、適性を探り、進路についての考えを深め、確固たる進路目標を持たせる。	LHR、『今未来手帳』、『ポートフォリオ』を活用し、第1学年の間に進路目標の定まった者が ○70%以上:A ○60%以上:B ○50%以上:C ○50%未満:D	-	結果報告は2学期生徒のアンケートによる。	A	ほとんどの生徒が進学を目指しており、2学期生徒アンケートでは『今未来手帳』を「いつも活用している」「ときどき活用している」を合わせると、83.7%である。		1学期にHRが実施できなかったため、不安ではあったが、担任が面談を丁寧に行い、生徒はしっかりと類型選択をすることができた。第2学年では、具体的に志望を固めさせ、進路実現に繋げていきたい。		
自らのキャリアプランについて、しっかり考える姿勢を育む。	「学年だより」を配布するなどして啓発に努め、進路目標やその他の目標など、目的意識を持たせ、自己実現に向けて地道に努力させる。	「学年だより」を ○各学期に1回以上(年間に4回以上)配布:A ○年間に3回以上配布:B ○年間に2回以上配布:C ○年間に1回以下:D	A	1学期に3回配布した。継続して配布する予定。	A	2学期末までに5回配布した。保護者からは、もっと学校の様子が知りたいので、回数増を望むとの声があった。	コロナ禍で、部活動の発表や大会での保護者観戦ができないということも加わり、学校の様子をもっと積極的に伝えることを望む保護者は多いと感じる。学年だよりだけでなく、これからは誰もが見ることの出来るホームページをもっと積極的に活用しなければならない。			
第2学年	規範意識と基本的な生活習慣を確立させる。	規則正しい生活を心がけ、心身の健康を保ち、遅刻・欠席なく、授業に集中できる姿勢を養う。特に不注意や寝坊を原因とする遅刻の減少を目標に指導する。	遅刻の各クラス別年間総数の平均 ○50回未満A ○70回未満B ○90回未満C ○90回以上D	-	第1学期の遅刻回数は、各クラス平均5.1回であった。	A	B	2学期の遅刻回数は、1学期より13.8回増えて18.9回となった。	遅刻をしない自律する指導を行っているが、2学期は大幅に遅刻回数が増加した。携帯電話は、さらなる使用マナーの徹底が必要である。	年度の後半に学習時間が増加してきており、生徒の進路目標が具体化し、意識が高くなってきたことが感じられる。今後も学習時間を増やすため、適切にシステム手帳を利用し、自己管理が出来るよう今後も指導をお願いする。入試システムは近年大きく変化しているため、外部検定試験の導入など、積極的にチャレンジをしていきたい。
	学力の向上を目指し、充実した学校生活を送らせる。	部活動の加入率70%以上の維持を目標とし、学業と部活動の両立を図れるよう指導する。	部活動の加入率 ○70%以上A ○65%以上B ○60%以上C ○60%未満D	A	82%の生徒が文化系、体育系のいずれかに所属している。	A		部活動への所属は、82.6%の生徒が、文化系、体育系の部活動に参加している。	体育系、文化系問わず、部活動を通じて充実した学校生活を送っている生徒が多い。今後、引退まで部活動を継続してもらいたい。	
		基礎学力の充実と応用力の醸成を図るために、家庭学習の習慣を身に付けさせる。	平日の平均授業時間外学習時間が ○2時間以上A ○1.5時間以上B ○1時間以上C ○1時間未満D	C	平日の家庭学習時間は、平均64.4分であった。	C		2学期の家庭学習時間は、1学期より13.4分増加し77.8分となった。	受験を見据えた学習に取り組み、家庭学習の時間が増加したと思われる。進路希望の実現に向け、学習時間を増やす指導をしていきたい。	
	自分の将来を見つめ、目標達成のために努力する姿勢を育てる。	『今未来手帳』を活用し、自らの興味・関心に基づく、適性を探り、確かな進路目標を持ち、実現に向け努力する生徒を育てる。	総合学習やLHRの時間、手帳を活用し、第2学年の間に進路目標が定まった者が ○70%以上:A ○60%以上:B ○50%以上:C ○50%未満:D	-	進路目標は、ベネッセ総合学力テストの志望大学等のデータによると、ほとんどの生徒が具体化している。	A		新学年の類型選択が終わり、進路目標が明確化している。	3年生となる次年度当初、さらに具体的な進路目標を決めさせる必要がある。また、受験プランを早期に計画し、受験勉強に取り組む指導をしていきたい。	
		「学年だより」を配布して啓発に努め、目的意識を持たせ、逆算の発想で自己実現に向けた地道な努力を重ねるよう指導する。	「学年だより」を ○各学期に1回以上(年間に4回以上)配布:A ○年間に3回以上配布:B ○年間に2回以上配布:C ○年間に1回以下:D	-	学期に一度の発行を予定している。すでに1学期の学年だよりは発行済みである。	C		2学期分の発行が遅れ、3学期当初となった。学年だよりを読んでいない生徒が多いと聞いている。	第3学年は進路情報を中心に、進路指導部と連携を取りながら記事を掲載していきたい。	

令和2年度 学校評価総括表(その2)

奈良県立生駒高等学校

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)						
				自己評価	進捗状況	自己評価		成果と課題(評価結果の分析)		改善方策等		学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
第3学年	個々の生徒が目標に向かうための生活習慣を確立させる。	保護者をはじめ関係機関との連携を図り、特に受験期に起こりがちな生活の乱れや心身の不調に注意を払い適切に支援していく。本校の授業の重要性を説き、遅刻や欠席無く、授業に集中して取り組む姿勢を養う。不注意や寝坊を原因とする遅刻の減少を目標に指導する。	遅刻の各クラス別年間総数の平均 ○50回未満:A ○70回未満:B ○90回未満:C ○90回以上:D	-	第1学期の遅刻回数は、学年全体で60回であった。	B		各クラスの平均は50.3回。学校推薦型入試を控えた11月に遅刻のほとんどが集中している。受験への精神的ストレスから体調不良を訴える生徒が多かった。		今後も「生駒高校の授業を大切にしよう」という雰囲気醸成を根気強く続けていく必要がある。		コロナ禍での受験指導は、本当に大変であったと思われる。年度末の進学実績は、良好であったようで、先生方の細やかな指導の結果であると感じている。当然のことながら、3年生になり学習時間が増加しているが、実際は1,2年生の時期からの取り組みが必要である。早い時期から進路目標を設定させるよう、学校全体で取り組んで欲しい。
	学力を向上し、進路希望に応じた学習を深め、充実した学校生活を送らせる。	基礎学力の充実に加え、発展的な内容に取り組む態度を育てる。生徒の学力を客観的に捉え、得意を伸ばし苦手克服に繋がる、具体的方策を示すことができるよう授業展開を工夫する。進路希望を見据えた授業外学習に自主的かつ計画的に取り組ませる。	学力が向上していると感じている生徒が ○70%以上:A ○60%以上:B ○50%以上:C ○50%未満:D	A	1学期生徒アンケートでは「そう思う」約30%「ややそう思う」約46%であった。	A		2学期生徒アンケートでは「そう思う」約32%「ややそう思う」約50%であった。下段の結果にも象徴されるが受験生としての自覚がこの実感に繋がっている。	「学力向上の実感」と「第1志望校のレベル」とのギャップをどう埋めていくのかに苦慮する生徒が多い。生徒達が自主的に進路目標を設定し、早期から学習習慣の確立に努めるよう指導するとともに、将来の目標実現に向けた行動に繋がる意識改革を前提とした教員側の強力な働きかけが今後も必要である。			
			平日の平均授業外学習時間が ○3時間以上:A ○2時間以上:B ○1時間以上:C ○1時間未満:D	C	1学期生徒アンケートより推測すると、平均1時間30分。主体的に学習できている者とそうでない者との差が激しいため、平均値が低い。	A		2学期生徒アンケートから推測すると、平均3時間。主体的に学習を進める生徒が増え、進路実現に向け地道な努力を継続した。				
自己の将来を見つめ、目標達成のために自ら努力する力を養う。	最高学年の全ての活動(学習活動・部活動)における目標設定の重要性を説き、自己実現に向けた地道な努力を継続させる。「学年だより」等を通じ、大学入試改革の最新情報を適宜発信し、進路情報の提供に努める。	「学年だより」を ○各学期に1回以上(年間に4回以上)配布:A ○年間に3回以上配布:B ○年間に2回以上配布:C ○年間に1回以下:D	-	学期に一度の発行を予定している。すでに1学期の学年だよりは発行済みである。	A		学期末の三者面談時に「学年だより」を発行した。2学期以降はそれぞれの時期に必要な「進路情報」を発行した。	多様な進路に対応するために必要な情報をどの時期に、どのような方法で伝えていこうか課題である。コロナ禍の現状を考えると、紙ベースのお知らせのみならずICTを積極的に活用した情報発信を今後活用していきたい。				
総務	学校運営が円滑に行えるように対処する。各種出版物、学校説明会、授業公開等を充実したものにする。	各分掌と連携し、儀式等の円滑な運営を目指す。	儀式等に関するホームページ掲載の質・量が昨年より増A、同程度B、減C、大幅減D。	c	儀式が縮小されたこともあり、ホームページの掲載は少なめであった。2学期以降増やしたい。	C		各分掌の協力を得て、儀式等を円滑にすすめることができた。儀式等の様子をホームページで紹介することができたが、若干減少した。	学校の様子を発信するよう逐次ホームページ掲載を行う。		毎年の学校説明会が開催できず、e-オープンスクールという新しい取り組みとなり、先生方の苦労や工夫を感じる。好評であったようで、何よりである。さらにWebページを利用しての広報活動を展開していただきたい。PTA活動について、来年度は感染症対策を行ったうえで実施可能な取り組みがあるか検討してもらいたい。	
		学校経営計画、学校案内リーフレットなどを作成する。学校説明会を円滑に進め、中学生・保護者に本校の方針等を理解してもらう。中学校等への積極的な情報提供を図る。	学校説明会でアンケートを実施し、「たいへんよく理解できた」「理解できた」の割合が95%でA、80%でB、60%でC、60%以下でD。	-	学校経営計画、学校案内リーフレットを作成した。本年度学校説明会は、e-オープンスクールでの開催である。情報図書部に協力をいただき、動画等を作成できた。	B		学校説明会はe-オープンスクールで開催できた。1月末現在430名の申し込みがあった。また、9件の問い合わせがあった。アンケートの結果「たいへんよく理解できた」「理解できた」の割合は90.0%だった。	e-オープンスクールでの開催は心配な点は多かったが、「理解できた」の割合が90%であったことは一安心であった。次年度は学校開催も考えた。			
	PTA、授業会、榎木会活動を円滑に進める。	PTA理事会、各部会等の取組を円滑に進める。ホームページやPTA広報誌を通じて情報発信をする。また、授業会、榎木会との連携を図る。	PTA等の活動に関するホームページ掲載の質・量が昨年より増A、同程度B、減C、大幅減D。	-	広報誌「けんゆう」は、前期は発行せず、2月の発行のみの予定である。	C		本年度はどの専門部も活動がほぼ中止となり、ホームページの掲載もほとんどできなかった。PTA広報誌が1回発行された。	PTA活動に積極的な保護者も多く、次年度は昨年度と同様に活動したい。そして、ホームページの掲載をこまめにしたい。			
教務	基礎学力の充実に努めると共に発展的な学習にも目を向けさせ、確かな学力の養成に努める。限りある時間の有効活用を考え、学習習慣の定着を図る。	各人、年に1度は自身の教科の授業と、他教科の授業の授業参観の機会を持つ。	授業参観への参加率 ○90%以上:A ○80%以上:B ○60%以上:C ○60%未満:D	D	各人が多忙のため、気が回らない傾向にある。11月実施分に期待したい。	D		時間が合わずに参観できなかつたり、多忙で参加できない傾向があった。その中でも参観に参加された先生に感謝したい。	年間2回の授業参観を自分の教科の参観と他教科の参観を区別せずに実施するののも一つの方法と思われる。			
		予習・復習をして授業に臨み、計画的に学習に取り組む力を身に付けさせ、授業外学習の時間の充実に図る。	平日の平均授業時間外学習時間が(1,2年生) ○2時間以上A ○1.5時間以上B ○1時間以上C ○1時間未満D(3年生) ○3時間以上:A ○2時間以上:B ○1時間以上:C ○1時間未満:D	1,2年生:C 3年生:B	家庭学習の時間はそれぞれであるが、アンケートにより回答数の多いところを評価とした。	C		平日の平均授業時間外学習時間はそれぞれであるが、アンケートにより回答数の多いところを評価とした。	生徒の実態として学習塾で学習している場合と自宅で学習している場合、その両方で学習している場合があるので、この点を明確にしつつ、家庭で学習できる課題内容を質・量共に増やしていく必要がある。			
			学力が向上していると感じている生徒が各学年で ○70%以上:A ○60%以上:B ○50%以上:C ○50%未満:D	B	1学期生徒アンケート結果により学力が向上していると感じている生徒が「ややそう思う」以上で70%を超えた。特に3年生では81.3%となっている。	A		2学期生徒アンケート結果により学力が向上していると感じている生徒が「ややそう思う」以上で70%を超えた。特に3年生では81.3%となっている。	授業時間外学習時間と学力が向上していると感じている生徒の数との乖離を解決しなければならない。			
	個々の生徒が目指す進路目標に応じた教育課程を編成する。	新学習指導要領実施に向け、年度内に新学習指導要領推進委員会・教科主任者会を効果的に開催する。	開催回数 ○6回以上:A ○5回:B ○4回:C ○3回以下:D	C	教科主任会、教育課程検討委員会を通して新学習指導要領に基づく教育課程を検討中である。	B		教科主任者会、教育課程検討委員会の準備のための時間が足りなかった。	国の動静がなかなか明らかにならず、一定の方向が定まっていない。			
新学習指導要領、観点別評価や高大接続研究会等に、教務部員は各人2回以上参加する。	参加率 ○80%以上:A ○60%以上:B ○40%以上:C ○40%未満:D	D	研修の機会があまりないのが現状である。	D		普段から多忙なことに加え、コロナ禍で研修の機会が少なかった。	多忙な中で教科に関する研修にも出られない状況である。教科の研修には出られても、教育課程等教育を総合的にみる研修に出る時間が作れるようにしたい。					
	本校における「総合的な探究の時間」の目標に基づく3年間の指導計画の企画立案と推進。	年間計画で示した内容で成果をあげる。そこから「具体的目標」につなげる他はない。ただ今年度については社会状況により変更を余儀なくされた場合の代替案を準備することが求められる。	発表(1年)・ポスターセッション(2年)の教員による三観点に基づく評価が「十分に達成している」80%以上 A・60%以上 B・40%以上 C・40%未満 Dとする。	B	1年、2年ともに11月に発表予定である。社会情勢の変化により内容を少し変更したが、10月の時点では最終評価に向けた取り組みを順調に行っている	B B		コロナ禍のもと、活動が大きく制限され、年度当初案とは、大きく変わる内容となった。修正・変更に、指導する先生方が対応していただき、何とか「探究」という取組に近づいたが、その骨子はまだまだ定まらない。	「探究の骨子」、言い換えれば、本校における探究の位置づけが定まらなければ、共通理解は生まれず、その成果は低いレベルでとどまってしまう。「企画推進室からの提案」では限界があるので、教育目標に組み込んだ形で実施していきたい。			

令和2年度 学校評価総括表(その3)

奈良県立生駒高等学校

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)		学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
				自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)		改善方策等
生徒指導	基本的な生活習慣の確立を図る。(挨拶・通学マナー・時間管理等)	通学路マナー、挨拶の励行推進を生活委員活動として実施する。 教員による校門指導を毎日行い、日々の登校指導を充実させ、服装・頭髪の点検や挨拶の奨励をする。	挨拶運動(生徒活動)を年間 10日以上A 7日以上 5日以上B 5日未満D	-	時差登校を実施しているため、現在のところ実施していない。	-	新型コロナウイルス感染症の拡大の影響から、今年度の実施は見合わせた。	来年度、社会状況を見ながら再開を検討する。	駅ターミナル指導、遅刻をなくす運動等、社会人として通用する人間性を育てる指導を継続されていることは立派である。結果、電車内や駅でのマナーは良く、トラブル等もない。今後も地域との協力をより強め、地元の中学生が進学したい高校となってもらいたい。 スマートフォンの使用については、使い方やマナーを徹底するため、講演会等を開催し、継続して指導を続けて欲しい。
		校外指導を充実させ、電車内、ターミナル指導を実施する。規範意識の向上を目指す。	校外指導を年に 6回以上A 5回B 4回C 3回以下D	-	新型コロナ感染拡大のため、現在のところ実施していない。	-	新型コロナ感染症の拡大の影響から、今年度は大幅に実施回数が減った。	来年度、社会状況を見ながら例年通りの実施を検討する。	
		不注意、寝坊等での遅刻回数の減少を図る。	年間延べ数 50回以上減A 40回以上50回未満減B 30回以上40回未満減C 前年と同程度D	-	現在91件である。	C	1年生177件、2年生113件、3年生91件合計381件である。 時差登校解除以降の遅刻が目立った。 一部の生徒が遅刻を繰り返している。	基本的な生活習慣の確立を啓発し続ける。	
	教職員共通理解の下に生徒指導を行う。	生徒指導内規における、特別指導数を減少する。	年間特別指導数 5件以内A 5件から10件未満B 10件から15件未満C 15件以上D	C	現在3件の特別指導をおこなった。 (携帯に関わる軽微な指導は除く)	B	9件の特別指導をおこなった。 (携帯に関わる軽微な指導は除く)	スマホの使い方やマナーの徹底、インターネットリテラシーを日々機会あるごとに理解させ規範意識の向上をに努める。	
	家庭や地域、関係諸機関との連携を強化する。	休業中の生徒心得や保護者宛文書を通じて啓発する。また、PTA家庭教育部の活動を通して連携を図る。	生徒心得及び保護者宛文書の発行を年に ○6回以上:A ○5回:B ○4回:C ○3回以下:D	C	現在1回発行している。	C	4回発行した。	社会の変化・変革に遅れることなく、事あるごとに啓発する。	
		地域における巡回指導への参加を充実する。	年に 6回以上A 5回B 4回C 3回以下D	C	現在2回参加している。	C	今年度4回参加したが、巡視活動のほとんどが中止となった。	来年度、社会状況を見ながら例年通りの実施を検討する。	
教育相談	不安や悩みを抱える生徒に対し、適切な支援を行う。	報告、連絡、相談を基本に生徒の不安や悩みの状態を的確に把握し、適切な支援を行うためにスクールカウンセラーや外部支援機関との連携を密にする。	不安や悩みを抱える生徒の欠席日数が昨年度から ○85%未満:A ○90%未満:B ○95%未満:C ○100%未満:D	A	非常変災の影響や昨年度長期欠席者の進路変更等により、数値の上では全校で昨年度比15%以下と激減しているが、特に第1学年においては率にして倍増していることに注目せねばならない。	A	数値上は前年度比25%。しかし全学年とも2学期の対1学期比は倍以上に激増した。カウンセラーからの助言や継続的カウンセリングの効果が表れた例もあったが引き続き手厚い対応が求められる。	担任をはじめ当該生徒と適切に関わることができるよう、カウンセラーとの連携を促進する。	
	多様な生徒に対して、心身の安定と自己実現を図る支援を行う。	教育相談及び特別支援に関して、生徒指導部の支援下で生徒の実態把握に努めると共に、スクールカウンセラーと学年・担任・関係部署等との連携をとる。	生徒アンケートにおいて、取り組みに対して“自分のためになると思う”と“やや思う”をあわせて、 ○70%以上A ○60%以上B ○50%以上C ○50%未満D	-	結果報告は2学期生徒アンケートによる。	B	”自分のためになると思う”と”やや思う”とで、3年生の「セルフコントロール講習」では84%、「教育相談だより」では61%の回答があった。	スクールカウンセラーが、カウンセリング以外で幅広く生徒と関わるができる機会を継続的に模索する。	
進路指導	生徒個々が進路希望の実現を図れるよう学力向上に努める。	生徒一人一人を大切に、その可能性を伸ばすために基礎学力の充実に努める。また、手帳などの活用により学習習慣の確立を促す。	生徒アンケートにおいて、進学講座を受講して効果があった ○80%以上:A ○70%以上:B ○60%以上:C ○60%未満:D	-	結果報告は2学期生徒アンケートによる。	A	役に立った、役に立つ部分もあったを併せて92.3%であった。ただ、受講者の数が減少しており、いかにして参加させるかが課題である。	実施内容の更なる充実に努めると共に、参加意欲の向上のためのアナウンスの工夫が必要と考えられる。	
		スタディサブリの活用、校外模擬試験の実施等の授業以外の学習場を提供する。	生徒アンケートにおいて、毎日少しでも授業以外の学習が出来た ○80%以上:A ○70%以上:B ○60%以上:C ○60%未満:D	A	1学期生徒アンケートより、毎日や1日おきに家庭で学習できていると答えた生徒の割合が83.8%であった。	A	1学期生徒アンケートより、毎日や1日おきに家庭で学習できていると答えた生徒の割合が83.8%であった。	課題の出し方や量、質に工夫や変更を加えて、家庭での学習の習慣化を図る。また、予習復習の大切さを生徒自身に実感させる授業のあり方を模索する。	
		生徒アンケートにおいて、スタディサブリを活用して効果を実感した ○80%以上:A ○70%以上:B ○60%以上:C ○60%未満:D	-	結果報告は2学期末のアンケートによる。	B	役に立った、役に立つ部分もあったを併せて76.5%であった。しかし、スタディサブリを契約はしたが全く利用していない者が33.7%もいた点が課題である。	B	今年度に引き続き、サブリ通信を更に充実させ、活用意欲を刺激する。また、未利用者への声かけを行い、利用率の向上を図る。	一人ひとりの可能性を伸ばすため、スタディサブリを活用し、授業以外の学習場面も提供している点、進路についても主体的に行動する生徒を育てることに力を注いでいる点は立派である。進学講座について、来年度は生徒のニーズにあった質の高い取り組みを行う必要があるのではないかと検討して実施いただきたい。
	進路情報を精選・充実させ、活用しやすい環境を整備する。	手帳の活用やポートフォリオ実践を通じて、自己管理できる生徒、主体的に考え行動する生徒を育てる。	生徒アンケートにおいて、模擬試験を受験後に「やり直し」をして活用できた。 ○80%以上:A ○70%以上:B ○60%以上:C ○60%未満:D	-	結果報告は2学期生徒アンケートによる。	B	している、ときどきするを併せて71.9%であった。3年だけで見ると81.6%、2年だけでは68.9%、1年は65.3%と学年が下がるほどできていない。	1,2年生に対しては、生徒任せにするのではなく、課題に加えるなど強制力をもって取り組ませることが必要である。	
		進路情報の収集、活用にあつかわしい進路指導室・進路自習室を目指し、進路委員を通じた情報の発信方法を工夫する。	生徒アンケートにおいて、進路情報や資料が役に立った。 ○80%以上:A ○70%以上:B ○60%以上:C ○60%未満:D	-	結果報告は2学期生徒アンケートによる。	A	できている、ときどきできているを併せて64%で、学年による偏りもなかった。手帳の利用割合は83%であるので、振り返りの習慣化が必要である。	振り返りの重要性を進路実現に絡めて理解させることで、習慣化をめざす。粘り強い語りかけと振り返りをすすめる際に”利用しやすい手帳”を研究する。	
		最新の進路情報の取得と生徒への適切な広報を目指し、進路指導部員のみならず関係教員に校外での研究会や説明会への参加を求める。	校外での研究会や説明会への参加回数が、 ○参加30回以上:A ○参加20回以上:B ○参加10回以上:C ○参加10回未満:D	C	コロナウイルス感染症の影響で、研究会や説明会がほとんど中止となった。オンラインでの参加も伸びていない。	B	役立った、役立つものもあったを併せて80.6%であった。更に精選してニーズに合った情報をタイムリーに提供する事が重要である。	入試改革時の今、情報収集は特に大切である。取捨選択を行い、よりわかりやすく興味を喚起する情報の提供に努める。	
『進路の手びき』を全生徒に配布し、進路HRの資料として使用するなど、有効活用を図る。	生徒アンケートにおいて、『進路の手びき』が役に立った。 ○80%以上:A ○70%以上:B ○60%以上:C ○60%未満:D	-	結果報告は2学期生徒アンケートによる。	A	役に立った、役に立つ部分もあったを併せて85.8%であった。社会の変化を反映し、更なる編集を加え、内容の充実を図る。	例年並みには研修出来るよう、情報を提供する。また、オンライン化に対応できるようICT環境の充実に向け働きかける。			

令和2年度 学校評価総括表(その4)

奈良県立生駒高等学校

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)				
				自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
人権教育	人権を尊重し、人権侵害や差別を見抜き、それらを解決する意志と実践力を育てる。	人権HR指導案作成に担任に関わってもらう。また、人権講演会の充実を図るとともに、「自分には何ができるか」を考えさせる取組を展開する。あらゆる場面において人権尊重の視点からの指導を行う。	3年最後のアンケートにおける、「いじめ」や「差別」に気づいたとき、どうしますかに対して、「見て見ぬふりする」が 5% 未満 A 15% 未満 B 25% 未満 C 25% 以上 D	-	3年アンケートは未実施である。	B	B	3年生の人権アンケートにおける「あなたは『いじめ』や『差別』に気づいたとき、どうしますか。』という設問に対して、『見て見ぬふりする。』との回答が3.8%であった。しかしながら、3.8%あった『その他』という回答の中には、『場合による』とするものが多数あったことから、「人権を尊重し、人権侵害や差別を見抜き、それらを解決する意志と実践力」を持った生徒を育てて切れているとはいえない。人権HRの展開の中に、様々な人権課題について自分との関わりを意識させ、最終的には「自分には何が出来るか」を考えさせる視点を取り入れていく。そのためにも、指導案作成に多くの人の意見を取り入れることは重要であり、教員相互による人権HR指導案の作成は、人権HRの充実に確実につながっている。	担任の先生に指導案の作成をしていただくことは継続し、指導案作りに役立つ資料の充実にも努める。	これからの日本社会は、グローバル社会の一員として、いじめ問題、性差別問題等、様々な分野において対応が迫られる。生徒には差別解消に向け、「自分には何が出来るのか」と考えさせる視点で教育活動を行って欲しい。在宅教育期間中での、日本学生支援機構奨学金の申請手続き作業は、生徒と対面できないなかで大変であったと推察できる。今後も丁寧な支援をお願いしたい。
	自己理解を進めることにより、他者のことも理解する資質を育て、お互いを認め合う集団づくりを行う。	グループワークを取り入れることにより、生徒が仲間との交流を通じて自分自身について考えながら仲間意識を高め、共に成長することを促す。	生徒アンケートにおいて、「なかまづくり」が “よくできた”が 80%以上A “よくできた”と“まあまあできた”とで 80%以上B “よくできた”と“まあまあできた”とで 70%以上C “よくできた”と“まあまあできた”とで 70%未満D	B	1学期生徒アンケートにおいて、「なかまづくり」が “よくできた”が 42.9% “まあまあできた”が 50.1%で、 “よくできた”と“まあまあできた”とで 93.0%であった。	B		今年度、部活動内での「いじめ」事象があったことを重く受け止める。改めて、どのような集団においてもなかまづくりを大切にしていかなければならない。	違いを認めることの大切さに気づかせるとともに、相手の気持ちを思いやる想像力を高め、人権問題を自身の問題であると考えさせる内容の作成に努めていく。	
人権教育 教育支援 (奨学金)	奨学金指導を通して生徒の学習権の確保と進路の保障を目指す。	各種奨学金の情報を的確に伝え、応募手続きを指導する。 特に希望者が増加している日本学生支援機構大学等予約奨学金については、人権教育部全員で対応にあたる。	生徒アンケートにおいて、奨学金申込に関する説明について “大変よかった”が 80%以上A “大変よかった”と“まあまあよかった”とで80%以上B “大変よかった”と“まあまあよかった”とで70%以上C “大変よかった”と“まあまあよかった”とで70%未満D	B	1学期生徒アンケートにおいて、「大学予約奨学金に向けての説明会や手続きの進め方は、丁寧に Rowe されましたか」が “大変よかった”が 33.2% “まあまあよかった”が 57.9%で、 “大変よかった”と“まあまあよかった”とで91.1%であった。	B	B	高校奨学金・大学予約奨学金・その他の奨学金について、各学年・担任の先生方、また保護者の協力の下、すべて滞りなく説明・申し込み・返還指導等を終えることができた。	大学予約奨学金の事務手続きに関しては、保護者に対しても更に文書や電話等で丁寧にしていきたい。	
保健体育	生徒の体力の向上を図る。	体育系部活動入部率65%以上とする。	体育系部活動入部率が ○65%以上:A ○55%以上:B ○50%以上:C ○40%未満:D	B	1学期生徒アンケートの結果より、61.9%であった。	B	B	11月のスポーツテストでの回答では所属しているは55% 所属していないは45%	来年度は、部活動も中学3年生での活動がほとんど出ていないと予想されるので、オリエンテーションで魅力ある部活動のアピール、競技力の向上、充実したトレーニング機器の設置、施設の整備を行ってきたい。	来年度の1年生は、コロナ禍での1年間を受験で過ごした生徒であるため、体力の低下が懸念される。年度当初、体育の授業、部活動において、十分に生徒の様子を観察し、体力向上の方策を実施してもらいたい。感染症対策を行った上での健康診断の実施、苦勞していただいた。さらに健康意識を高めるために、保健指導資料の充実や保護者への啓発を強化する。来年度も引き続き、コロナ感染症対策をお願いする。
		スポーツテストの結果を活用し、体力向上を図る。 偏差値(Tスコア)3ポイント向上を目指す。	Tスコアのポイント向上が ○3ポイント以上:A ○0ポイント以上:B ○-2ポイント以上:C ○-2ポイント未満:D	-	新型コロナウイルスの影響で、スポーツテストがまだ測定完了していないので、データが出せていない。	B		昨年度と比較し 2年生男子 +3.3ポイント 3年生男子 +1.7ポイント 2年生女子 +3.9ポイント 3年生女子 +2.6ポイント 平均+2.9ポイント	体育の授業において今後も欠かさず補強運動をおこなっていく。体を動かすことが苦手な生徒も授業では積極的に取り組んでいるが、授業時間外で体を鍛えるまでには至ってはいない。部活動の更なる活性化を進めていく。	
	健康管理の意識を高める。	再検査、精密検査の受診率の向上を目指す。	検診後の再診、治療率が ○70%以上:A ○55%以上:B ○40%以上:C ○40%未満:D	-	新型コロナウイルスの影響で、健康診断が未測定で結果が出せていない。	D	尿、歯、視力、眼科、内科はD 結核、心電図はC 治療継続者が多く、現段階では低い結果となっている。	三者面談を利用して通知を徹底する。健康意識を高めるために、保健指導資料の充実や保護者への啓発を強化する。		
	食育の意識を高める。	朝食の摂取率の向上を目指す。	毎日の朝食摂取率が ○90%以上:A ○80%以上:B ○70%以上:C ○70%未満:D	B	1学期生徒アンケートの結果より、毎日朝食を摂取している生徒は、82.2%、「ほとんど食べない」「食べない」生徒は5%である。	B	毎日食べる 84% 時々欠かす 13% 食べない 2% 昨年より、摂取率が高くなっている。	コロナ禍の現状を考えると、家庭教育に頼る部分が多いので、面談の機会などに何か伝えて行かなければならない。		
環境整備	生徒自らが校内美化に積極的に取り組む姿勢を育み、減災に対する意識を高めさせる。	日々の清掃・美化活動のさらなる徹底を図り、避難訓練を通じて減災について考えさせる。	生徒アンケートにおいて、充実した清掃・美化活動を実施できたか、減災について意識しているかを問う。 60%以上でA、50%以上でB、40%以上でC、40%未満でDとする。	-	結果報告は2学期生徒アンケートによる。	B	B	コロナ禍の影響で、避難訓練が出来なかった。アンケート集計により、積極的に、または真面目に取り組んだ生徒が全体の77%になった。特に2・3年生では80%近くになった。	避難訓練については、来年度コロナ禍がどの程度終息しているによるが、学年毎に集合する形で実施したい。清掃・美化意識はとても高い。トイレはあう程度修復工事を行ってもらえた。講義室の机・椅子の状況が悪い。1クラス増えるので整備が必要。	今後も生徒が校内美化に積極的に関わることができるよう、美化委員を中心とした啓発活動を行い、意識を向上させる取り組みを続けて欲しい。また、学年別に取り組む等、感染症対策を行った方法で避難訓練の実施をぜひお願いする。通学路清掃は、清掃場所を拡大する方向で検討していただきたい。地域も協力する。
		通学路清掃の該当区域を広げることによって、地域とのつながりを意識した活動に発展させる。	美化委員に加え、有志の参加数が前年比10%以上の増でA、5%以上の増でB、同程度でC、減でDとする。	-	2学期中間終了後に通学路清掃を実施した。2年生の美化委員16名の他、剣道部5人の有志参加があった。	C		2学期末考査終了後に通学路清掃を実施した。3年生の美化委員16名が参加した。コロナ禍の影響で、有志参加をなくした。	生徒たちはとても熱心に取り組んでいるし、通学路清掃の該当区域も、線路や壱幼稚園の方まで広がっているが、あまり通学路にゴミが落ちていない状況である。地域とのつながりを意識させるためには、公園の清掃なども取り入れるべきであるか、検討が必要である。	

令和2年度 学校評価総括表(その5)

奈良県立生駒高等学校

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)				
				自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
特別活動	在宅教育解除後の、クラブ活動の衰退防止。	学校再開後、第一学年を中心に啓発活動を展開する。再開後の部活動予算確保と、迅速な支給に向けての条件を整える。	部活動加入率が、昨年比80%以上ならA、70%以上ならB、60%以上でC、60%以下となった場合D。	-	学校再開後、新入生に対して、勧誘ビラ配り(希望部活動)を行った。また、従来通り部活動登録期間を設けて、加入の促進の一助とした。生徒総会に代わる代議委員会を開き、予算案の審議のみ行うことにより、部活動への予算配布を行えた。	A	B	コロナ対策の中で、許される範囲の部活動勧誘を行ったが、第1学年生徒の加入率は昨年度の89%から今年度81%へ低下を招いてしまった。生徒会予算の執行については、大会数の減少があり大会費に余裕ができ、その分部活動の備品費用を充実することができた。	新入生の部活動への加入について考察すると、運動系部活動を中心に当初から部活動に対して高い目的意識がある生徒は、今年度のように授業始まりが遅れても加入率が変わらない。しかし、部員数の少ない文系部活動を中心に減少率が高く、自宅を過ごす時間が長かった影響が出たように思う。本年11月に行った文化部活動発表会のような小さな行事を4月中に行い、新入生の加入率を上げる方策が必要かも知れない。	新入生の部活動への加入を促進するため、様々な工夫を行われ成果を上げられた。来年度に向け、新学期当初からの方策を検討していただきたい。今年度は多くの生徒会活動や行事を自粛せざるを得なかったが、来年度は感染症対策を行いつつ実施できる方法を見つけてもらいたい。
	在宅教育解除後の、学校行事の再構築に尽力する。	学習活動との調整を取りながら、在宅教育期間中にできなかった学校行事や地域活動を可能な限り行う。	在宅期間中にできなかった学校行事が、昨年比60%以上実施できたらA、50%実施できたらB、40%実施できたらC、実施できたものが40%以下ならD。	-	新入生歓迎行事、生徒総会、各種委員会、文化祭が中止となった。各種委員会の活動は後期より再開できた。文化祭の代替案として、文化クラブの発表機会の確保を検討中である。	C		11月に文化系部活動の発表会を企画し実施することができたが、最大行事の文化祭が行えず、学校全体として大きな影響を残してしまった。後期各種委員会は、集まりを持てたものの、それぞれの活動自体は弱体化した感じは否めなかった。	本年度中止した行事のうち、生徒総会は来年度も代議員会で代替する。新入生歓迎行事は、1年生のオリエンテーションの中で、生徒会・部活動キャブテンのみを公欠参加させ、部活動の勧誘を行ってみたい。前期各種委員会は、人数制限を行い実施したい。文化祭については、他校の実施状況を調査し、許可される範囲で何らかの行事を実施したい。	
情報図書	学校からの情報発信に努める。	ホームページを定期的に更新し、最新情報を発信する。	ホームページの更新 ○年間100回以上:A ○年間90回以上:B ○年間80回以上:C ○年間80回以下:D	A	9月末日の時点でのホームページ更新回数は198回でした。	A	A	1月集計時点で、ホームページ更新回数は229ページです。昨年度は2月と3月で約22ページの作成実績がありましたので、1年間で約250ページの作成予想です。今年度は、過去実施した経験のない緊急事態対応に何とか取り組むことができました。 ・G suite登録や利用についての質問対応 ・オンライン授業の仕組み作り ・ネット環境が整わない生徒の把握とその対応 ・e-オープンスクールへの対応 など	今年度は新ホームページへの移行に伴い各方面から積極的にHP更新、オンライン教育、e-オープンスクールへの対応などによりホームページの更新が増加した。今後、GIGAスクール構想の推進等に伴い、ICT活用が進むことが予想される。今年度で作成したマニュアルを整理するなどし、次年度への引き継ぎ作業を進める。	年度当初の在宅期間中、動画教材等の生徒への情報の発信に関わる校内整備に尽力していただき感謝している。GIGAスクール構想の推進等に伴い、校内のネットワーク環境が整備され、さらに授業でのICT活用が進むことを要望する。また、スマートフォンの普及により、活字への興味が薄れてきていると言われる中で、図書室の充実、読書活動を推進されており、良いことだと感じる。今後も一層力を入れ、活字文化への啓発を図って欲しい。
	生徒の読書活動を推進する。	朝の読書や読書感想文コンクール応募など読書指導を充実させる。計画的な広報活動を実施する。	貸出冊数年 ○1400冊以上:A ○1300冊以上:B ○1200冊以上:C ○1100冊以上:D	-	朝の読書旬間(1学期)は未実施。図書館便り(4,6,7月)発行。貸出冊数は、9月末現在で657冊である。	A		コロナ禍のため、図書委員活動を制限、朝の読書も1学期は実施しなかった。2学期に8日間、3学期は14日間実施。読書感想文コンクールに3作品応募、うち1作品が協議会賞。読書感想文コンクールには8作品応募。校内読書感想文集を作成配布済。図書館便り(ライブラリー)は、5回発行。貸出冊数は、1580冊(昨年度年間貸出冊数1180冊)。1月19日現在。	コロナ禍でできなかった図書委員活動(広報・館内整備・イベントなど)を開始し、利用を促進する。読書センター・情報センター・学習センターとしての機能を果たすことができるよう、蔵書構成を見直す。「居場所(サードプレイス)」としての図書館であることも重視し、環境を整備する。	
事務	学校運営経費及び光熱水費の適切な執行管理、新型コロナウイルス感染症予防に関して適切な対応を行う。	予算内で節電節水による経費削減を行うよう、教員への啓発を行う。新型コロナウイルス感染症予防に対応する消毒液などの消耗品を適切に準備する。	光熱水費削減 ○-10%:A ○-5%:B ○昨年並:C ○昨年より増加:D	D	新型コロナウイルス対策でエアコン使用時に窓を開けていたり、生徒全員の手洗いなどで電気使用量は昨年比10%増えており、水道使用量は昨年比20%増えている。	D	C	新型コロナ対策とは別に冬場の厳冬による給水管破裂がありその発見が遅れたため水道料金が多くなってしまった。水道メーターがまわっているのを発見したらすぐに漏水箇所を探さなければならない。	漏水と考えられるのがわかったら、全教員に伝えて漏水がないか緊急に調べる。さらに水道業者にすぐに現状を伝えて対応を依頼する。	新型コロナ感染症対策で、教室の窓を開けた状態でエアコンを稼働させるなど、予算面で様々な工夫が必要であったと思う。また、改修等、校舎の老朽化に伴う施設の整備を進めていただき安心して健康に関わる事項を優先して改善に取り組んでもらいたい。
	旧体育館(ホール)の耐震工事の準備とそれに伴う関連工事の適切な執行を行う。	予算内で耐震工事の準備を主に体育の先生に声をかけて勤めるが、ホール内の備品について廃棄するものと引き続き保管するものを仕分けて8月からの耐震工事に備える。	準備状況 ○順調に進められている:A ○概ね順調:B ○やや滞っている:C ○滞っている:D	A	施工業者も決まり、10月から工事に入る。事前準備は順調に進んでいる。	A		耐震工事について学校で準備しているものは問題なく進めているが、過去の工事の不備で竣工が5月末まで遅れてしまうことになった。そのため入学式にも影響があるので、その対応が必要になっている。	学校行事を行う際は、事前に工事業者と綿密に打ち合わせを行い、トラブルが起こらないよう取り組む。	